

# 平成20年度 第1回 北九州市地方独立行政法人評価委員会

## ( 会議要旨 )

- 1 日 時： 平成20年7月3日(木) 14:00～16:00
- 2 場 所： 北九州市役所庁舎 5階 特別会議室 A
- 3 出席者：
  - 委 員(五十音順)
    - ・石田委員長、片山委員、城水委員、福地委員
  - 公立大学法人北九州市立大学
    - ・矢田学長、尾上事務局長、本村事務局次長、神崎ひびきのキャンパス担当部長、江島経営企画課長、二宮総務課長 ほか
  - 市 側
    - < 財政局 >
      - ・古賀財政局長、近藤都市経営戦略室長、古澤都市経営戦略室次長 ほか
- 4 議 題
  - (1) 平成20年度評価スケジュールについて
  - (2) 北九州市立大学矢田学長との意見交換について
  - (3) 北九州市立大学の平成19年度業務の実績報告について
  - (4) その他

(委員長)

それでは、議題に従って進行します。

最初の議題は、今年度の当評価委員会のスケジュールです。

事務局から説明をお願いします。

( 1 )平成20年度の評価スケジュールについて、事務局から説明

(委員長)

ありがとうございました。

委員の皆様、質問・意見等があれば、お願いします。

《各委員了承》

( 2 )矢田学長との意見交換について

(委員長)

それでは、次の議題「北九州市立大学矢田学長との意見交換」に移ります。

矢田学長から「北九州市立大学の改革」についてご説明をいただき、その後意見交換を行いたいと思います。

それでは、矢田学長、よろしくをお願いします。

《矢田学長より「北九州市立大学の改革」について説明》

(委員長)

矢田学長、ご説明どうもありがとうございました。それでは意見交換を行いたいと思います。

委員の皆様、質問・意見等があれば、お願いします。

(委員)

教養教育の教養課程についてはポイントになりそうですが、具体的にはどういう努力をされていますか。

(学長)

教養部に近いところの専任の先生を、希望を募り、そこで新しいカリキュラムを作って開始したということが特徴だと思います。

高校から入ってきて、専門教育までの間に1年半ぐらいあり、この間に集中的に教育しないと、大学離れが非常に強くなってきます。そういう点では、やはり人間的な環境も含

めて、一貫教育をしっかりとやるということだと思います。

（委員）

大きな特徴として語学教育があると思いますが、教員の数とか、英米学科とか、中国学科とか、総合的にはどのように認められつつありますか。

（学長）

外国人の教員を 11 名基盤教育センターの中に担当教員として入れており、身分的にもしっかりとしたものしながら語学教育を強めています。

また、英米学科の派遣留学制度を今秋から始めます。中国学科ではスピーチの世界大会で入賞するなどの成果が上がっています。

（委員）

地域貢献の中で、高大連携をどのように進めますか。

（学長）

小倉高校と国際環境工学部との連携で自然科学の授業を、北九州市立高校と経済学部との連携で経済系商業系の授業を、以前からやっています。

（委員）

専門職大学院である九大との連携、あるいは九州・アジア経営塾との連携については、今後どういう形で進めていきますか。

（学長）

平成 19 年 11 月の開学記念シンポジウムでは、福岡の財界、北九州の財界にご支援いただいて、今後連携していくことを合意しました。実務会議も実施しています。

（委員）

学生の早期支援システムについて、父母との連携をどのような形で進めますか。

（大学）

学生相談に来なくて休退学する可能性をもっている学生をできるだけピックアップして、本人や保護者に会っています。

（学長）

成績表を送るかどうかという議論は出ていますが、結局は大人ですし、親子関係の難しい世代でもあり、本人の了解を得たところだけ保護者に成績表を送っています。

(委員)

学生プラザが大変盛況のようですが、相談のところにどなたかいつもいるのですか。

(大学)

生活相談には保健師や臨床心理士のカウンセラー、キャリアセンターには就職のカウンセラーや専任の准教授がいますし、どちらも常時、事務職員がいます。

(委員長)

他に質問・意見等はありませんか。

ご質問等がなければ、これで「意見交換」を終わらせていただきます。矢田学長ありがとうございました。

(委員長)

それでは、次の議題に移ります。大学の方から平成19年度業務の実績報告についてご説明いただきたいと思います。

(3) 北九州市立大学の平成19年度業務の実績報告について、北九州市立大学から説明
---

(委員長)

ありがとうございました。委員の皆様、質問・意見等があれば、お願いします。

(委員)

学生プラザの利用者が増えている理由は分かりますか。

国立大学の休学と退学が増加傾向という記事が先日出ていたと思います。

(委員)

資料はまとめていますが、今回持ってきておりませんので、次回お出ししたいと思いません。

(委員)

平成20年4月入学者の状況の中で、研究科では定員割れしています。今度の改編との兼ね合いはどういうことになるのでしょうか。

(大学)

統合したことも少し影響があると思いますが、要するに、外向けの周知などの活動は、今までは修士課程は学部の延長線上で学部の先生が責任を持っていました。それが、今度、社会システム研究科という大学院独立研究科になり、周知などがうまくいっていない部分

がありましたので、今年はその辺に注意して、増やしていきたいと考えています。

(委員)

近年の傾向として、大学院にかなり進学する傾向がありますが、特に工学研究科はどのくらいの割合進学するのですか。

(大学)

40数%です。

国立大学は60%程度です。

(委員)

アクア研究センターが大学のほうに移管されていますが、今までアクア研究センターに所属されていた市の職員の方は、そのまま大学に行かれたということですか。

(大学)

そのまま大学の研究員として来られています。

(委員)

今後はアクア研究センターを拡充して、学生も募集されると思いますが、どのようなビジョンを持たれていますか。

(大学)

アクア研究センターは、市の環境科学研究所にあった研究所で、そこが18年度に、そのままアクア研究センターということで、技術開発センター群に移っています。20年4月には資源循環系の専攻を作り、その時点で、教員は学部のほうに移っています。アクア研究センター自体は、技術開発センター群の一つに位置づけられ、大体は、3年時限の研究センターであり、そのパフォーマンスによって、今後、存続するかどうか決まります。

一方、移ってきた教員については、今年の4月から学部教員になっていますので、基本的には、大学学部生および院生の教員ということになっています。アクア研究センターに来ましたが、現在は、学部大学院の教育研究に従事するという体制になっています。

(委員)

アジア関係の教育を充実させていくという話がありましたが、市の外郭団体である国際東アジア研究センター(イクシアード)との連携について考えていますか。

(大学)

イクシアードと大学の社会システム研究科が連携協定を結びまして、大学院の指導をやっていきます。それが1つの基盤となって、今回のアジア文化社会研究センターについては、

学内のアジア研究のネットワークを作ります。また、研究部分についても、イクシアードとの連携を今後強化していこうと考えています。ただ現実には、アジア文化社会研究センターについては、大学の教員のみをネットワーク化しております。

(委員)

内容的に重複することはないのでしょうか。

(大学)

大学では、アジア文化、例えば、東南アジアの地域の研究や文化の研究をしている教員がいます。経済についても、地域経済、ミクロの分野が多いですが、イクシアードは、計量経済でマクロの分野ですので、アジアの開発というところで若干関連はありますが、直接その分野を担当する教員というのは、ほとんど重複がありません。

(委員長)

他に質問等ございませんか。

#### (4) 今後の予定について

(委員長)

それでは、次の議題「今後の予定」に移ります。事務局から説明をお願いします。

(事務局)

今回の委員会では、引き続き「実績報告書」について、大学へヒアリングを行っていただきます。

また、「財務状況」について大学から説明いただいた後、市の産業経済局から「財務諸表と剰余金の繰越に対する承認」及び「中期計画の変更認可」につきまして、市の考え方を説明させていただきます。

次回の日程につきましては、7月15日(火)の14時からということをお願いします。

なお、ただいま配付しました評価調書に委員の皆様のご意見等をご記入いただき、7月18日までに事務局必着にてご送付いただきますようお願いいたします。

本日、皆様に電子メールにて評価調書の様式を送付いたしますので、それに入力のうえ、返信いただければ幸いです。

評価調書につきましては、昨年作成していただいておりますが、改めて何点かご確認させていただきたいと思っております。

《事務局から「記載要領」について説明》

(委員長)

ありがとうございました。委員の皆様、質問・意見等があれば、お願いします。

《各委員了承》

(委員長)

それでは、本日の委員会はこれで終了します。